

### 令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名 『語り績むおみ 臼井忠兵衛・阿部萌生二人の形代展』  
 事業主体 麻績村  
 (連絡先) 麻績村 村づくり推進課 0263-67-4851

事業区分 教育・文化の振興  
 事業タイプ ソフト  
 事業費 1, 291, 851円

#### 事業の内容

麻績村の歴史の中心である善光寺街道麻績宿旧本陣第十三第当主臼井忠兵衛の残した羅漢像と忠兵衛のひ孫に当たる人形作家・阿部萌生の人形展を開催した。会場内には忠兵衛と麻績村民との繋がりや忠兵衛の残した歴史資料の展示を行い歴史文化の継承に繋げた。

なお、新型コロナウイルス感染症が令和3年8月27日から全県下レベル5となったことから広域広報を制限、計画した講演会(座談会)を中止、また展覧会場内での見学時間を短時間をお願いし感染予防を徹して行った。



↑ 阿部萌生コーナー



↑ 臼井忠兵衛コーナー



← 臼井忠兵衛に関する歴史資料のコーナー

善行寺街道麻績宿施設(旧本陣、旅籠花屋、大和屋)の一般開放を行った。  
 所有者の臼井良雄さんから本陣内資料の説明をしていただいた。



↑ 旧本陣の様子



↑ 旅籠花屋の様子



← 大和屋の様子

## 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか項目毎に記載すること。

### 1. 展覧会開催

展覧会開催期間 令和3年8月28日から9月5日まで  
展覧会会場 麻績村交流センター  
来場者数 174人

### 2. 旧本陣、旅籠花屋、大和屋の一般開放来館者数

公開期日 8月28日(土)29日(日)  
旧本陣 来館者数 52人  
旅籠花屋 来館者数 50人  
大和屋 来館者数 24人

感染対策を行い展覧会のみ開催、チラシ広報地域はもとより、新聞記事から村民をはじめ来場者を迎え観光誘客事業につながった。

来場者からは、「麻績村には、こんなに沢山の資料が残っていることを改めて知ることができた。」「麻績村には、沢山の文化人と繋がりがあったことを教えてもらった。」等の声をいただいた。知られざる麻績村の歴史・文化を継承することができ、一定の成果を上げることができた。

### 3. 地元中学校への冊子提供

会場のパネル等資料を編纂して冊子を作成したことにより、歴史資料として作成することができ、中学校等関係団体に配布した。なお、来年度、中学校では、「ふるさとプロジェクト」において麻績の歴史を学ぶことが生徒からの要望もあり行うこととなった。

### 4. 上田市立時術館

上田市立美術館にパンフレット・チラシ・冊子を送付誘客宣伝をお願いした。

また、上田市長瀬在住の農民美術連合会会長を務めた池田初男さんに連絡、今後の交流事業について協議をおこなった。今回の当展示会については、感染症拡大のため資料を送付するのみとし、見学については個人の判断にまかせることにした。

### 5. 広域観光

感染拡大の対策として広域広報を制限して行った。信濃毎日新聞・市民タイムス・読売新聞が本展覧会開催の記事掲載。歴史に興味がある方や人形愛好家が県内外から以下のとおり来場いただいた。

県外来場者 東京都・千葉県・神奈川県・埼玉県・群馬県  
県内市町村者 松本市・安曇野市・千曲市・上田市・佐久市・伊那市・池田町  
筑北村  
展覧会総人数(展示会場、旧本陣、旅籠花屋、大和屋) 約300人

## 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今回の展覧会をとおし旧本陣の牽引した文化の地下水脈は、善行寺街道麻績宿が運んだ二つの個性が時空を超えて出会った、そこには、歴史と文化が受け継がれてきている。

麻績村に残る貴重な資料から、歴史と文化受け後世に継承していくとともに歴史を資源とした新たな歴史観光事業に発展させていきたい。

※自己評価

B

### 【理由】

国内では、緊急事態宣言が21都道府県、まん延防止等重点措置を12県、長野県内でも全地域に警戒レベル5が発せられてことにより広報活動を制限せざるを得ない状況となってしまった。また、講演会(座談会)、上田市立美術館、農民美術運動関係者との交流事業を中止せざるを得ない状況となってしまったことは残念であった。

しかし、村民並びに県内外の歴史・文化に興味のある方に、臼井忠兵衛の羅漢像から、現在活躍している阿部萌生創作日本人形の展示をすることができた。また、臼井忠兵衛を取り巻く歴史背景を土台に資料を作成、麻績村の歴史と文化を紹介することができ、知られざる麻績村の歴史と文化の継承と歴史観光事業を展開することができた。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた。 「B」: 予定していた効果が得られた。

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の理由等について、工夫や改善を要する点がある。